

主 題：
キリストを享受することと
わたしたちが命において成長して円熟へと至ること

標 語：
わたしたちは、神によって割り当てられた、わたしたちの唯一の中心としてのキリストに集中すべきであって、キリスト以外のいかなる人、物、事柄にも集中すべきではありません。すべての問題、特に分裂の事柄に対する唯一の解決は、すべてを含むキリストを享受することです。

主を享受することには多くの面があります。それは、主の臨在の喜び、神聖なロマンスの中で生きる喜び、神聖な三一の神聖な分与の喜び、神の楽しみ
の川から飲む喜び、神の愛を知る喜び、神のみこころを行なう喜び、すべての境遇に満ち足りることの喜び、王国で主の喜びの中へと入ることです。

ヨセフの生涯の記録は、その霊の統治を啓示しています。なぜなら、その霊の統治は、円熟した聖徒の、王として支配する面であるからです。その霊の統治（命の中で王として支配する生活、神の王国の実際における神聖な命の制限と拘束の下にいること）は、その霊の他のどの面よりも高いのです。

わたしたちの前に置かれた喜びは、花婿である主イエスが、用意を整えた彼の花嫁のために来ることです—花嫁の円熟、花嫁の建造、花嫁の義、花嫁の美しさ、花嫁が戦士となって神の敵を打ち破ること。

© 2023 *Living Stream Ministry*

メッセージ 1

すべてを含むキリストを享受することは、
召会におけるすべての問題に対する唯一の解決である

聖書：I コリント 1:2, 9. 2:9-10. 13:1-8. エレミヤ 2:13. 哀 3:22-24

- I. コリント人への第一の手紙は、すべてを含むキリストを享受することが、召会におけるすべての問題に対する唯一の解決であることについての書です。神の回復における神の意図は、キリストを、神のエコノミーの唯一の中心として、またわたしたちにとってすべて（わたしたちの享受のためのわたしたちの分け前）として回復することです—I コリント 1:2, 9, 24, 30:
- A. わたしたちはみな、キリストの交わり、すなわちキリストに対する享受へと召されています（I コリント 1:9）。「交わり」という言葉は、享受の思想を含みます。キリストはわたしたちの割り当てられた分け前であり、神によってわたしたちに与えられてわたしたちに享受させます（2節、コロサイ 1:12）。
 - B. コリント人への第一の手紙で、使徒パウロの意図は、コリントの聖徒たちの間の問題を解決することでした。すべての問題、特に分裂の事柄に対する唯一の解決は、すべてを含むキリストを享受することです。
 - C. わたしたちはキリストに集中すべきであって、キリスト以外のいかなる人、物、事柄にも集中すべきではありません。わたしたちは、神によって割り当てられた、わたしたちの唯一の中心としてのキリストに焦点づけるべきです。それは、信者たちの間のすべての問題が解決されるためです—I コリント 1:9, コロサイ 1:17 後半, 18 後半。
 - D. わたしたちの目標は、キリストを最大限に享受することと、キリストを最大限に獲得することであり、それはキリストのからだを建造するためです。これは、わたしたちが千年王国において、キリストをわたしたちの賞として極みまで享受するという結果になります—ピリピ 3:14, マタイ 25:21, 23。
 - E. わたしたちは、「一つの事」を思っている者となる必要があります。ピリピ人への手紙における「一つの事」は、キリストに対する主観的な認識と経験と享受を指しています。一つの事とは、キリストを追い求めて彼を獲得し、彼を所有することです—ピリピ 2:2, 5, 1:20-21, 3:7-14, 4:13。
 - F. 一つの事以外のことを思うことは、神のエコノミーに反逆することです。神のエコノミーは、わたしたちが一つの事を思うことです。召会生活の中で、わたしたちはすべての聖徒が一つの事を思うように助ける必要があります。わたしたちの思うことは、召会生活、からだの生活のための、キリストに対する享受に焦点づけられ、それで満たされているべきです。

G. コリント人への第一の手紙が啓示しているのは、神がすべてを含むキリストを、少なくとも二十項目の豊富をもって、わたしたちの分け前としてわたしたちに与えており、わたしたちに享受させるということです。クリスチャン生活と召会生活の秘訣は、わたしたちがキリストを享受することです—I コリント 1:9 :

1. わたしたちはキリストを、神がわたしたちに与えた分け前として享受する必要があります—2 節。
2. わたしたちはキリストを、神の力として、またわたしたちに与えられた神の知恵、すなわち義、聖別、贖いとして享受する必要があります—24, 30 節。
3. わたしたちはキリストを、わたしたちの栄光化のために、栄光の主として、さらには栄光の王としてさえ享受する必要があります—2:7-8. ローマ 8:30. 詩 24:6-10。
4. わたしたちはキリストを、神の深み（深い事柄）として享受する必要があります—I コリント 2:10。
5. わたしたちはキリストを、神の建造の唯一の土台として享受する必要があります—3:11。
6. わたしたちはキリストを、わたしたちの過越（5:7）、パン種のないパン（8 節）、霊の食物、霊の飲み物、霊の岩（10:3-4）として享受する必要があります。
7. わたしたちはキリストを、かしら（11:3. コロサイ 2:19. エペソ 1:19-23）、またからだ（I コリント 12:12, 24-25 前半. エペソ 4:15-16）として享受する必要があります。
8. わたしたちはキリストを、初穂（I コリント 15:20, 23）、第二の人（47 節）、最後のアダム、すなわち命を与える霊と成って（45 節）、わたしたちにとってすべてである方として、享受する必要があります。

II. 神は信実であり、わたしたちを彼の御子の交わりへと、享受へと召しています。多くの時わたしたちは、彼がわたしたちをご自身の意図へと召すことに対して不忠信です—I コリント 1:9. エレミヤ 2:13. 哀 3:22-24 :

- A. 神のエコノミーにおける神の意図は、生ける水の源泉、源となって、彼ご自身をわたしたちの中へと分与して、わたしたちの満足また享受となることです。この享受の目標は、召会、神の配偶者を生み出して、それを神の増し加わり、神の拡大とし、神の豊満とならせて、神を表現することです—ヨハネ 3:29-30. エペソ 3:16-19, 21。
- B. 神を生ける水の源泉とする唯一の道は、日ごとに彼から飲み、彼を流し出すことです。これは、わたしたちが絶えず主を呼び求める（歌い、感謝し、歓喜し、祈り、賛美し、神の救う行為を他の人に知らせることをもって）ことを必要とします—詩 36:8-9. イザヤ 12:3-6. I コリント 12:13. ヨハネ 7:37-39. 4:10, 14. ローマ 10:12-13. I テサロニケ

5:16-18。

- C. 神の民は神から飲んで神を享受するのではなく、彼に対して不忠信になって二つの悪事を犯しました—「わたしの民は二つの悪事を犯したからである。彼らはわたし、この生ける水の源泉を捨てて、自分たちのために水ため、水をためることがない壊れた水ためを掘ったのだ」—エレミヤ 2:13 :
1. 第一に、神の民は、彼らの享受のための彼らの源泉、彼らの源としての神を捨てました。第二に、彼らは神以外の源に転向しました。その源は彼らを満足させることができず、あるいは彼らを、神を表現する神の豊満としての神の拡大とならせることができませんでした。
 2. 水ためを掘ることは、イスラエルが人の労苦によって苦しみ、何か（偶像）を作って神を置き換えることを描写しています。水ためが壊れて水をためることができなかつたことが示しているのは、わたしたちの享受のための、生ける水としてわたしたちの中へと分与された神ご自身を離れて、何もわたしたちの渇きをいやすことはできず、神を表現する神の拡張とならせることはできないということです—ヨハネ 4:13-14。
- D. 悪しき者どもの邪悪な状態は、彼らが主に来て主を食べ飲み享受することをしないことです。彼らは多くの事を行ないませんが、来て主と接触し、彼を取り、彼を受け、彼を味わい、彼を享受することをしません。神の目に、これほど邪悪なことはありません—イザヤ 57:20. 参照、55:1-2, 6-7。
- E. わたしたちは不忠信ですが、神は信実です。しかし、彼の信実は、わたしたちの天然の理解や観念にしたがっているものではありません :
1. 神は信実であって、わたしたちの偶像を取り除きます。わたしたちが主以上に愛し、あるいはわたしたちの生活の中で主に置き換わる、わたしたちの内側のものは何であれ、偶像です—エゼキエル 14:3. I ヨハネ 5:21。
 2. わたしたちの環境における外側の平和、わたしたちの個人的な心地よさや安楽、わたしたちの財産は、わたしたちにとって偶像となって、わたしたちをそらす可能性があります。しかし神は信実であって、これらの事物を取り除き、わたしたちが生ける水の源泉としての彼から飲むようにします。
 3. 神は信実であって、わたしたちに問題を持たせます。それは、わたしたちが自分自身に信頼するのではなく、彼に信頼することを学ぶためであり、また彼がわたしたちを彼のエコノミーへと導いて、わたしたちがキリストを享受し、キリストを吸収し、キリストを飲み、キリストを食べ、キリストを消化して、神がわたしたちの中で増し加わり、彼のエコノミーを成就するためです—エレミヤ 17:7-8. II コリント 1:8-9. ヨハネ 16:33. I コリント 10:3-4. 12:13。

4. 神は、わたしたちがキリストを享受すること以外に何の関心もありません。わたしたちは、自分の失敗のゆえに、自分には望みがないと思うかもしれませんが、神に失望はありません。わたしたちの失敗はただ道を開いて、キリストが入って来てわたしたちにとってすべてとなり、彼がわたしたちを円熟へともたらすことができるようにします—ローマ 8:28-29. ヘブル 6:1 前半. 創 37:1 とフットノート. 47:7 とフットノート。

Ⅲ. コリント人への第一の手紙は、主を享受する道が彼を愛すること（I コリント 2:9-10. 16:22）、また互いに愛し合うこと（13:1-8 前半）であることを啓示しています。主の回復は、初めの愛をもって主イエスを愛すること（啓 2:4. I ヨハネ 4:19）、またキリストの有機的なからだを建造するために互いに愛し合うこと（エペソ 4:16）の回復です：

- A. わたしたちが主を愛することは、わたしたちが主の心の中へと入って、そのすべての秘訣を把握することができるようにするために必ず必要なことであり、また神がわたしたちのために定め用意した深く隠れた事柄を、わたしたちが認識し、それにあずかるために必ず必要なことです—I コリント 2:9-10. マタイ 22:37-38. 詩 73:25. 116:1-2：
 1. 召会生活の内容は、キリストを享受することにかかっています。わたしたちが彼を享受すればするほど、その内容はますます豊かになります。しかしキリストを享受することは、わたしたちが初めの愛で彼を愛することを必要とします—啓 2:4-5, 7。
 2. 召会の墮落は、わたしたちが主に対する初めの愛を離れることで始まります。初めの愛、最上の愛で主を愛することは、すべての事で主に首位、第一位を与え、彼の愛に押し迫られて彼を重んじ、彼をわたしたちの生活の中ですべてとすることです—4-5 節. コロサイ 1:18 後半. II コリント 5:14-15. マルコ 12:30. 詩 73:25-26。
 3. わたしたちが主イエスを信じたときに受けたその命はパーソンであり、このパーソンを適用し享受する唯一の道は、初めの愛で彼を愛することによります。わたしたちの命としての主イエスはパーソンであるので、わたしたちは彼と新しい接触を持って、まさにこの瞬間に、また日ごとに彼の現在の臨在を享受する必要があります—ヨハネ 11:25. 14:5-6. I テモテ 1:14. ヨハネ 14:21, 23. II コリント 5:14-15. 啓 2:4-7. コロサイ 1:18 後半. ローマ 6:4. 7:6。
 4. わたしたちは、キリストの愛で押し迫られている人でなければなりません。神聖な愛は、わたしたちに対する大水の急流のようであって、わたしたちに強いて彼に生きさせ、わたしたち自身の制御を越えて極みまで彼を愛させるべきです—II コリント 5:14。
 5. 極みまで主を愛するために、わたしたちは自分の命の日の限り、神の家に住むことと、神の麗しさ（愛すべきこと、楽しさ、喜ばしさ）を見つめることと、神の宮で神を尋ね求めることとを願い、追い求める

者となる必要があります。神を尋ね求めることは、わたしたちの日常生活の中であらゆる事について神に相談することです—詩 27:4。

B. 愛は、わたしたちが何であっても、あるいは何を行なっても、キリストの有機的なからだとしての召会を建造するために最も卓越した道です—I コリント 12:31 後半—13:8, 13. 参照、14:1, 3, 4 後半：

1. 「知識は人を思い上がらせますが、愛は人を建造します」。わたしたちは務めのメッセージを聞いて、単なる知識で思い上がるようになるかもしれません—8:1 後半. 参照、II コリント 3:6。
2. 命の霊の法則が愛の法則として (ローマ 8:2. ガラテヤ 6:2-3) わたしたちの内側で活動するとき、主にあるわたしたちの労苦は愛の労苦であり (I コリント 15:58. I テサロニケ 1:3)、その中でわたしたちは弱い者を支援し支えます (使徒 20:35. I テサロニケ 5:14)。「弱い者」は、彼らの霊や魂や体において弱いか、あるいは信仰において弱い者を指しています。
3. わたしたちが愛するキリストは、召会を愛するキリストです (エペソ 5:25)。わたしたちは彼を愛するとき、彼が愛するように召会を愛します。召会生活は兄弟愛の生活であり (I ヨハネ 4:7-8. II ヨハネ 5-6 節. ヨハネ 15:12, 17. 啓 3:7. エペソ 5:2. 参照、ユダ 12 節前半)、からだは愛の中でそれ自身を建て上げます (エペソ 4:16)。
4. 神が与えてくださった、わたしたちの再生された霊は愛の霊です。わたしたちは、燃える愛の霊が今日の召会の墮落を征服することを必要とします—II テモテ 1:7. ローマ 12:10-11。
5. キリストのからだの一、建造、実際のために、わたしたちが共にブレディングされることの経験と享受の中へとますます入っていくとき、わたしたちの互いの愛は、わたしたちにとって真実になります—I コリント 12:14-27. ローマ 16:1-16. コロサイ 4:16. ヨハネ 12:24. レビ 2:4-5。